

韓国語の語彙的複合動詞における補助動詞的 V2 について
- 「V-nata」「V-nayta」「V-tulta」の再考と意味解釈を中心に-

大阪大学大学院生 全 敏杞

1. はじめに

韓国語の「動詞+動詞」は日本語のそれと形態的な面で非常に似ているものの、その形態的緊密性にバラツキを見せるため、「語」としての性質を否定されることもありました。特に、「V-nata」、「V-nayta」、「V-tulta」は韓国語学などでは、後項動詞(以下 V2)を「補助動詞」と捉える主張が多かった。しかし、「補助動詞」の定義は曖昧であり、これらの複合動詞は「語」と言える形態的緊密性を保持していると思われる。本発表では以下の点を主張していきます。

- 「V-nata」「V-nayta」「V-tulta」は「語」であり、かつ「語彙的複合動詞」である。
- この3つの補助動詞的 V2 は日本語の L-asp と類似した特徴を保持する。

1.1 塚本(2012)

塚本(2012) は基本的に前項動詞と後項動詞の組み合わせを格支配で分類している。日本語の語彙的複合動詞に対応する朝鮮語の例を出して、同様の格支配をしている点を両言語の類似点の一つであるとする。寺村の分類による「自立語+自立語」の組み合わせが殆どであり、V1 が V2 の「手段」、「方法」を表す複合動詞であることは類似していると主張している。

(1) cakepwon-i kicay-lul ciha-eyse cisang-ulo mileoli-ko issta.

作業員-主格 機材-対格 地下-起点 地上-着点 押し上げ-ている。 (塚本 2012:206)

以下の日本語の統語的複合動詞は朝鮮語にはそれに対応する複合動詞の形をするものは無く、(2a)のように「単純な動詞」、(2b)のように「副詞+動詞」の形をする例を取り上げる。

(2) a. congsoli-ka kkuthnassta(ベルの鳴りが終わった)

ベルの鳴り-主格 終わる-過去-断定

b. chinkwu-ka chayk-ul kyeysok ilkessta.(友たちが引き続き本を読んだ)

友人-主格 本-対格 引き続き 読み-過去-断定。 (塚本 2012 : 214)

1.2 和田(2011)

和田(2011)の研究では韓国語に語彙的複合動詞があることは認めているが、その範囲は「語幹+語幹」の形態をする動詞に制限している。さらに V2 が補助動詞の役割をする「V+V」の形式を「A(uxiliary)V(erb)C(onstruction)」と定義し、高生産性と取立て詞の挿入可能、V1 の代用表現の可能といった点で、統語部門で作られた複雑述語であると主張する。

(3) ilk-e cwuta. / pelita.

読んで あげる / しまう

(和田 2011:85)

(4) john-i Mary-lul manna-nun po-ass-ciman,

(K. -Y. choi 1999:43)

ジョン-Nom Mary-Acc see-E-cont see-past-although

(5) Ywuseni-ka wuywu-lul masie-peli-ess-ta.

Ywuseni-Nom wuywu-Acc drink-E throw away Past-Dec

Namho-to wuywu-lul kulay peli-ess-ta.

Namho-also wuywu-Acc do-so-E throw away-Past-Dec

(召 kihyek1995:224, 283)

‘ユソニが牛乳を飲んでしまった。ナムホも牛乳をそうしてしまった。’

しかし、補助動詞的働きをするとあげている V2 の例が少なく、より多くの V2 を個別に検証しなければならない。和田(2011)では「V-nata」、「V-nayta」、「V-tulta」を具体的に挙げていない。一方、塚本(2012)は韓国語にも統語的な性質を有する複合動詞も存在するが、それは日本語の統語的複雑述語に対応するという主張がある。本発表ではこの3つの複合動詞が語彙的複合語であり、さらにこれらの V2 は補助動詞的働きをすることを明らかにしていく。

2. 韓国語における語彙的複合動詞の存在の確認

本発表は以下の「V-nata」、「V-nayta」、「V-tulta」を4つのテストから「語」であることを明らかにする。さらに、統語的複合動詞「V-nakata」との比較を用いて語彙的複合動詞であることを証明する。

2.1 「語」のテスト

① 否定要素の挿入

否定の範囲が複合動詞全体になるのか、V2のみ否定が出来るのかをみるテストである。テストの結果、3つの複合動詞全部 V2のみ否定することは不可能である。

(6)a. *pwulwhang-eyse pese an-na-ss-ta. a'. pwulwhang-eyse an pese-na-ss-ta.

不況-奪格 脱ぎ 否定-出る-過去-断定 不況-奪格 否定 脱ぎ-出る-過去-断定

b. *pemin-ul kalye an nay-ss-ta. b'. pemin-ul an kalye-nay-ss-ta.

犯人-対格 捕まり 否定 出す-過去-断定 犯人-対格 否定 選び-出す-過去-断定

c. *salam-tul-i moye an tul-ess-ta. c'. salam-tul-i an moye- tul-ess-ta.

人-複数-主格 集り 否定 入る-過去-断定 人-複数-主格 否定 集り-入る-過去-断定

さらに、韓国語の否定対極表現¹である cenhye(全然)なども、複合動詞全体の否定のみ可能である。

(7)a. *pemin-ul cenhye kalye an nay-ss-ta. b. pemin-ul cenhye an kalye-nay-ss-ta.

犯人-対格 全然 選び 否定出す-過去-断定 犯人-対格 全然 否定 選び-出す-過去-断定

一方、統語的複雑述語は V2のみ否定要素が入る場合もある。

(8) a. sonnim-ul teyliko-kata. (お客さんを連れて行く)

a'. sonnim-ul teyliko an-kata. (お客さんを連れて行かない)

b. sakwa-lul kaciko-ota. (りんごを持って来る)

b'. sakwa-lul kaciko an-ota. (りんごを持ってこない)

② 時制屈折の挿入

¹ 即ち、否定を表す副詞は否定表現と必ず同じ節内にいなければならない。kim (1995:390)参照

時制を表す屈折は語の内部に関与しない。

- (9) a. *pwulwhang-eyse pes-ess-nata.
不況-奪格 脱ぎ-過去-出る
b. *pemin-ul kalye-ess-nayta.
犯人-対格 選び-過去-出す
c. *salam-tul-i moye-ess-tulta.
人-複数-主格 集り-過去-入る

③ 等位構造における後ろ向き削除

この規則は、「語」という形態的かたまりを尊重していて、「sacang-I millye (社長が押され)」、「pemin-ul kalye (犯人を選び)」、「salamtul-i moye (人々が集まり)」はそれだけで、まとまった節を構成する解釈なら適切であるが、それぞれ「na」, 「nay」, 「tule」が省略された意味では成立しない。

- (10) a. *sacang-i milley, mwuncyecem-i tule-na-ss-ta.
社長-主格 押され、問題点-主格 tule-出る-過去-断定 (社長が追われ、問題点が露呈した)
b. *saken-i 2wol-ye ile, taythongleyng-i mwule-na-ss-ta.
事件-主格 2月-に 起き、大統領-主格 退き-出る-過去-断定 (事件が2月に起こり、大統領が退いた)
- (11) a. *pemin-ul kalye, cwupem-ul capa-nay-ss-ta.
犯人-対格 選び 主犯-対格 捕まえ-出す-過去-断定 (犯人を選び、真犯人を捕まえた)
b. *wichi-lul ala, phosute-lul ttute-nayta.
位置-対格 知り、ポスター-対格 剥がし-出す (位置を知り、ポスターを剥がし出した)
- (12) a. *salam-tul-i moye, phayn-tul-i molye-tul-ess-ta.
人-複数-主格 集りファン-複数-主格 集まり-入る-過去-断定 (人々が集まりファン達が集まってきた)
b. *saep-ey ttuie, ssawum-ey malye-tul-ess-ta.
事業-位格 走り、喧嘩-位格 卷かれ-入る-過去-断定 (事業に走り、喧嘩に巻き込まれた)

④ V1 と V2 の間に取立て詞の挿入

- (13) a. pwulwhang-eyse pese-man/*to/*nun na-ss-ta.
不況-奪格 脱ぎ-さえ/も/は 出る-過去-断定
b. pemin-ul kalye-man/*to/nun nay-ss-ta.
犯人-対格 選び-さえ/も/は 出す-過去-断定
c. salam-tul-i moye-*man/*to/nun tul-ess-ta.
人-複数-主格 集り-さえ/も/は 入る-過去-断定

以上のテスト結果、取り立て詞の挿入が可能な場合もあるものの、影山(2012)は「上代中古の語彙的複合動詞」にも助詞の挿入が見られる現象もあり、このような現象が見えるからと言って「語」の性質を否定する絶対的な証拠にはならないとしている。

- (14) a. 見も知らずの人

- b. 旧(もと)の木は、生(お)いや茂れるはなお影をやなせる... (島崎藤村作詞「椰子の実」)
 c. 山川に風のかけたるしがらみは 流れもあへぬ紅葉なりけり (百人一首、春道列樹、平安前期) (な流れ切れない)

2.2 語彙的複合動詞のテスト

影山(1993)は語彙的複合動詞と統語的複合動詞を区別する基準を提案している。本発表では、その基準に基づき、統語的複合動詞である「V-nakata」と比較することで、「V-nata」、「V-nayta」、「V-tulta」が語彙的複合動詞であることを明らかにする。

① V1 の代用表現化の可否

V1 に代用表現「kuli hata(そうする)」は現れない。特に、本動詞「nata」と「tulta」は非対格自動詞であるため、V1 に非能格自動詞の許容度が低いのは予想できる結果である。

- (15) a. pwulwhang-eyse nule-na-ss-ta. a'. *sileplyul-to kuli-hay-na-ss-ta.
 不況-奪格 脱ぎ-出る-過去-断定 失業率-も そう-し-出る-過去-断定
 b. pemin-ul kalye-nay-ss-ta. b'. *kongpem-to kuli-hay-nay-ss-ta.
 犯人-対格 選び-出す-過去-断定 共犯-も そう-し-出す-過去-断定
 c. chayksang-ul tule-nay-ss-ta. c'. *uyca-to kuli-hay-nay-ss-ta.
 机-対格 持ち-出す-過去-断定 椅子-も そう-し-出す-過去-断定
 d. salam-tul-i moye-tul-ess-ta. d'. *chatul-to kuli-hay-tul-ess-ta.
 人-複数-主格 集り-入る-過去-断定 車-も そう-し-入る-過去-断定
 e. Kwukmwul-ey kan-i paye-tul-ess-ta. e'. *kenteki-e-to kan-i kuli-hay-tul-ess-ta.
 汁-位格 塩気-主格 染み-入る-過去-断定 具-に-も 塩気-主格 そう-し-入る-過去-断定

一方、統語的複合動詞「V-nakata」はV1 に代用表現が現れる。

- (16) a. na-nun cechwuk-ul nulye-naka-ss-ta. a'. tongsayng-to kuli-hay-naka-ss-ta.
 私-主題 貯金-対格 増やし-行き-過去-断定 弟-も そう-し-行き-過去-断定
 b. na-nun saep-ul cinhwayng-sikye-naka-ss-ta. b' ku-to kuli-hay-naka-ss-ta.
 私-主題 事業-対格 進行-させ-行き-過去-断定 彼-も そう-し-行き-過去-断定
 c. hyeng-un yelsimhi kkwun-ul khiwe-naka-ss-ta. c'. na-to kuli-hay-naka-ss-ta.
 兄-主題 一生懸命 夢-対格 育て-行く-過去-断定 私-も そう-し-行き-過去-断定

② V1 にサ変動詞の挿入

語彙的複合動詞の「V-nata」、「V-nayta」²、「V-tulta」はV1 にサ変動詞の挿入は基本的にできない。

- (17) a. ai-nun hwullyunghakey cala-na-ss-ta. a'. *ai-nun hwullyunghakey sengcang-hay-na-ss-ta.
 子供-主題 立派に 育ち-出る-過去-断定 子供-主題 立派に 成長-し-出る-過去-断定
 b. pemin-ul kalye-nayta. b'. *pemin-lul sentayk-hay-nayta.
 犯人-対格 選び-出す 犯人-対格 選択-し-出す

² 「V-nayta」に「hay-nayta(成し遂げる)」という例が見られるが、これは idom 化された単語と見られ、コーパスでは「動名詞+hata(する)+nayta」の例は見つからなかった。

- c. cwumwun-i mollye-tul-ess-ta. c'. *cwumwun-i cipcwunghay-tul-ess-ta.
注文-主格 集中-入る-過去-断定 注文-主格 集中し-入る-過去-断定

統語的複合動詞の「V-nakata」は V1 にサ変動詞が挿入できる。

- (18) a. hankwuke-lul eynsuphay-nakata.
韓国語-対格 練習し-行く。(韓国語と練習していく)
b. hwacayhyencang-ul swusuphay-nakata.
火災現場-対格 収拾し-行く。(火災現場を収拾していく)
c. say-sicang-ul kaychekhay-nakata.
新しい-市場-対格 開拓し-行く(新しい市場を開拓していく)

③ V1 の受身・使役形の挿入

一部の例を除き、「V-nata」、「V-nayta」、「V-tulta」は V1 に受身形、使役形の挿入は出来ない。

- (19) a. *sakikkwun-eyke nollye-na-ss-ta. a'. *kkoch-i phiwe-na-ss-ta.
詐欺師-奪格 遊ばれ-出る-過去-断定 花-主格 咲かせ-でる-過去-断定
b. *chinkwu-lul pwullye-nayta. b'. *kepwum-ul phwumkye-nayta.
友達-対格 呼ばれ-出す 泡-対格 噴かせ-出す
c. *40tay-ey cyephye-tulta. c'. *mwul-i jwulye-tulta.
40代-位格 折れ-入る 水-主格 減らせ-入る。

「V-nakata」は V1 に受身、使役形の挿入が出来る。

- (20) a. kaci-ka callye-naka-ss-ta. a'. cinhulk-i ssiskyenaka-ss-ta.
枝-主格 切られ-行く-過去-断定 泥-主格 洗えられ-行く-過去-断定
b. moksoli-lul nophye-nakata. b'. kihoy-lul salye-nakata.
声-対格 高め-行く 機会-対格 活かせる-行く

さらに、生産性の面でも「V-nakata」の生産性は非常に高く、一方 3 つの複合動詞は生産性が低い。以上の特徴から「V-nata」、「V-nayta」、「V-tulta」が語彙的複合動詞であることが分かる。

3. 補助動詞的な「V-nata」、「V-nayta」、「V-tulta」

3.1 本動詞「nata」の意味

標準国語大辞典によると、本動詞の「nata」は「出現」、「発生」を表し、「外部への移動」を表す場合もあるがごく限られた場合、(21 c)のような諺などで使われる。

- (21) a. sayssak-i nata. b. eyl-i nata.
新芽-主格 出る。 熱-主格 出る
c. tun-cali-nun mola-to nan-cali-nun an-ta.

入った-席-主題 知らない-も出た-席-主題 知る-現在-断定

日本語の「出る」の意味で訳されるが、単独で動作主の外部への移動を表す場合は無く、動作主の移動を表す場合は「kata(行く)」と「ota(来る)」の V1 に「nakata(nata+kata)」は「出て行く、出かける」を意味し、「naota(nata+ota)」は「出てくる」を意味する。

- (22) a. *cip-eyse 9si-ey nata. a'. cip-eyse 9si-ey nakata.
 家-奪格 9時-に出る 家-奪格 9時-に 出て行く。
 b. *cip-eyse 9si-ey nata. b'. cip-eyse 9si-ey naota.
 家-奪格 9時-に出る 家-奪格 9時-に出てくる。

このような意味は「V-nata」にも保持され、「外部への移動」を表すV1と結合することによってその結果状態を強調する働きをする。

3.1.2「V-nata」の意味

この「nata」が複合動詞のV2となると、「V1の結果状態の強調」を表す働きをする。

アスペクト素性：活動・状態動詞のV1と結合しても「nata」の[+telic]の性質が複合動詞のアスペクト素性を決定する。

(23a)のV1「mwulu-ta」は「(物理的に)席から後ろまたは横にさがる」という意味を表す。V1が非能格自動詞で、「mwulle-nata」も非能格自動詞となるが、V1が取れない項(sacang-cali(社長職))が選択できるのは「nata」の働きであると考えられる。

(23b)のV1「tatta」は「早く走る」という意味を表すが、「nata」と結合することで「早く走る」という意味の他に「逃げる」、「意欲、感情などが無くなる」という意味にもなる。

(23c,d)のV1は単独では使われず、複合動詞の形態で「現れる」、「出る」という意味となり、(23)の「nata」は本動詞としての意味をある程度、保持していると見られる。

- (23) a. Sacang-cali-eyse mwulle-na-ss-ta.
 社長の-座-奪格 下がり-出る-過去-断定 (社長の座から退いた)
 b. pemin-i tala-na-ss-ta.
 犯人-主格 走り-出る-過去-断定 (犯人が逃げた)
 c. ponseng-i tule-nata.
 本性-主格 tule-出る (実体が現れる、出る)
 d. koki mas-i wule-nata.
 肉の 味-主格 染み-出る (肉の味が染み出る)

(24)の「nata」は本動詞の意味が薄れて、補助動詞的役割をすると見られる。(24a)の「kkayta(覚める)」で、(24a')の「kkaye-nata」は「覚めた状態の完了」を意味し、(24b')は「nule-nata(増えた状態)」を意味し、(24b)の「nulta(増える)」の結果状態を強調している。

- (24) a. cam-eyse kkayta. a'. cam-eyse kkaye-nata.
 眠り-奪格 覚め-出る 眠り-奪格 覚め-出る (眠りから起きた)
 b. hukca-ka nulta. b'. hukca-ka nule-nata.
 黒字-主格 増える 黒字-主格 増え-出る (黒字が増える)
 c. sayssak-i totta. c'. ssayssak-i tota-nata.
 新芽-主格 生える 新芽-主格 生え-出る (新芽が生える)
 d. kangmwul-i pwutta. d'. kangmwul-i pwule-nata.
 川水-主格 増える 川水-主格 増え-出る (川水が増える)

例外的に、(25a)の「cchockita(追われる)」と(25b)の「millita(押される)」のように各々V1とV2共に自他交替をする場合もある。³さらに、例外的に idiom 化されて他動詞と結合する場合がある。⁴

- (25) a. hoysa-eyse cchocki-ta a'. hoysa-eyse cchockye-nata.
 会社-奪格 追われる 会社-奪格 追われ-出る。
 b. ltung-eyse milli-ta. b'. ltung-eyse millye-nata.
 1等-奪格 押される 1等-奪格 押され-でる

3.2 「V-nayta」の意味

3.2.1 本動詞「nayta」の意味

標準国語大辞典によると「nayta」は「nata」の使役形として、(26)は「出現」、「発生」の使役の意味となり、それ以外の意味で(27)は「提出」、「提供」を表す。

- (26) a. yangmal-ey kwumeng-ul nayta. b. hwa-lul nayta.
 靴下-位格 穴-対格 出す 憤り-対格 出す
 c. sako-lul nayta. d. soli-lul nayta.
 事故-対格 出す 音-対格 出す
 (27) a. hoysa-ey ciwonse-lul nayta. b. chayk-lul nayta.
 会社-位格 志願書-対格 出す 本-対格 出す

3.2.2 「V-nayta」意味

3.2.2.1 本動詞の意味を保持する「nayta」

「V-nayta」は日本語の語彙的複合動詞「V-出す」と似ていて、補助動詞的働きをする以外に、本動詞「nayta」の意味を保持し、V1が手段を表す場合がある。以下の(29)のように「V-nayta」にも「外部への移動」の意味が抽象的な拡張を起こし、意味的に連動している例もある。

- (28) a. kwail-ul sangca-ey tama-nayta. b. cikap-eyse ton-ul kke-nayta.
 果物-対格 箱-位格 盛る-出す 財布-奪格 お金-対格 取る-出す
 c. path-eyse tol-ul cwuwe-nayta. d. haksayng-ul pwule-nayta.
 畑-奪格 石-対格 拾う-出す 学生-対格 呼ぶ-出す
 (29) a. calmos-ul cipe-nayta. b. ku-uy yenki-nun nwunmwul-ul caa-nay-ss-ta.
 間違い-対格 掴む-出す 彼-属格 演技-主題 涙-対格 紡ぐ-出す-過去-断定

3.2.2.2 補助動詞的「nayta」

「V-nayta」には本動詞「nayta」の意味は薄れて、V2としての「nayta」は「V1の結果状態の強調」を補助動

³ 例外的に「cchockye-nata(追われ-出る)」と「cchocha-nayta(追い-出す)」、「millye-nata(押され-出る)」と「mile-nayta(押し-出す)」の自他両方あって、V1に受身が現れる。

⁴ sangsik-ul(eyse) pese-nata. (常識-対格(奪格) 外れる)

V1「pes-ta」は「衣服を脱ぐ」、「義務、責任などを免じる」という意味があるが、「pese-nata」となると「ある境界、範囲、影響から抜け出す」という意味に変わる。

詞的働きをする場合もある。「nayta」と結合するV1は他動詞であり、項の同定も自動的に起こる。

アスペクト素性：活動・継続動詞のV1と結合しても、「nayta」の[+telic]が複合動詞のアスペクト素性を決定する。

(30a)の「peskita」が「nayta」と結合すると、「剥く動作が終わった状態」を表し、(30b)の状態動詞「allta」も、(30b')の「ala-nayta」は「新たなことが分かるようになる」を示し状態変化動詞となり、「知った結果を強調」を表す。(30c)の「cista」も(30c')の「cie-nayta」になると、「作る行為の完了」を表している。V2の「nayta」は「V1の結果を強調することで、V1の結果の度合い、副詞的に意味を補足する」役割をすると見られる。

- (30) a. kkepcil-ul peskita. a'. kkepcil-ul pekye-nayta.
皮-対格 剥く 皮-対格 剥き-出す
b. wichi-lul alta. b'. Wichi-lul ala-nayta.
位置-対格 知る 位置-対格 知り-出す
c. kecismal-ul cista. c'. kecismal-ul cie-nayta.
嘘-対格 作る 嘘-対格 作り-出す

さらに、(30b)と(30c)のようにV1の意味を限定し、新たな意味を加える働きをする例はもっとある。(31a)のV1である「chac-ta」は「探す」を意味するが、「chaca-nayta」は「知らなかったものが分かるようになる」という意味を加える。(31b)のV1の「mol-ta」も「追う」という意味で、「mola-nayta」も「追い出す」との意味となるが、対象が「立場、抽象的な状態」にもなる。

- (31) a. ku-ka cikap-ul chac-nay-ss-ta. b. pwulpeyngtung-ul mola-nay-ta.
彼-主格 財布-対格 探す-出す-過去-断定 不平等-対格 追う-出す-断定

3.3「V-tulta」の意味

3.3.1 本動詞「tulta」の意味

「tulta」は「中の方への移動、又はある範囲内に入る、事象の一部に入る」という意味を表す。

- (32) a. pang-ey kunul-i tul-ta. (部屋-に 影-主格 入る)
b. pan-eyse 5tung-an-ey tule-ss-ta. (クラス-で5等の-中-に 入り-過去-断定)
c. ilki-ey ilen nayyong-i tul-e iss-ta. (日記-に こんな 内容-主格 入り-ある)

3.3.2「V-tulta」の意味

「V-tulta」は「V1の動作の強調又は様態」を表す。本動詞「tulta」の意味からかけ離れた解釈ではなく、V1が移動を表す動詞の場合は「中への移動=V1の強調」を表し、「nata」、「nayta」と同様「V1の強調や様態」を表す。

- ◎ アスペクト素性：V2の「tulta」の[+telic]の性質が複合動詞全体のアスペクト素性を決定する。

(33a)のV1「ttwita」は活動動詞、(33b)と(33c)のV1は状態動詞であるが、「tulta」と結合することによって、[+telic]になる。

V2の「tulta」の意味は保持されるが、(33a)の「ttwi-ta(走る)」はその意味を保持し、「走って入る」という様態を表す場合も、「新しいことに乗り出す」という意味になる場合もある。(33b)の「camkita(浸る)」はそれ自体が「水などの中に浸っている」の意味を保持しているため、「tulta」と結合すると「V1の強調ま

- (37) a. Pang-ey tulta. b. ai-ka elun-eykey tempye-tulta.
 部屋-に 入る 子供-主格 大人-与格 襲い-入る(襲いかかる、飛びかかる)

◎ 動詞としての活用パラダイムが不完全なものがある。

コーパスなどで調べると殆ど否定の意味でしか使われない場合がある。

- (38) a. heye-nata a'. heye-na-ci mos-hata.
 抜ける-出る 抜け-出る-否定語尾 不可能-する。

- (39) a. paykye-nayta a'. ltal-ul paykye-na-ci-mos-hata.
 耐え-nayta 1ヶ月-対格 耐え-出る-否定語尾-不可能-する

◎ 前項と後項の組み合わせが狭く限定されている。

- (40) a. thaye-nata(生まれる) b. kanan-eyse hyee-nata(貧困-奪格 抜け-出る)

- (41) tule-nata/nayta(現れる/現す)

(40a)の「thaye」は現代では単独では使われなく「nata」とのみ結合し、(38a)のV1の「heyta」と(39a)のV1「paykita」もコーパスで検索すると、単独では殆ど使われない。(41)のV1の「tule」も単独では使われない。

5. 結語

今まで複合動詞であることを否定されていた「V-nata」、「V-nayta」、「V-tulta」が語であることを確認した。さらに、影山(2012)で提案された「L-asp」概念を用いることで、これらを語彙的複合動詞として分析することが可能となった。本発表の分析に基づき、3つのV2は語彙的複合動詞を作るものであることを示す形態、統語的証拠があり、意味的には補助動詞的な語彙的複合動詞のV2であることが主張できる。

主要参考文献

影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房。

影山太郎(2012)「複合動詞の研究は何に役立つか」大阪大学言語文化学会第41回大会 記念講演会 配布資料。

Choi,kiyoung(1991) A theory of Syntactic X0-Subcategorization Ph.D Dissertation University of Washington, Seattle.

塚本秀樹(2012)『形態論と統語論の相互作用-日本語と朝鮮語の対照言語学的研究』ひつじ書房。

由本陽子(2001)「動詞から動詞を形成する語形成における下位範疇化素性の受け継ぎについて」『言語文化研究』第27号 pp.453-473. 大阪大学言語文化部 言語文化研究科。

和田学(2011)「2つの緊密性」『山口大学文学会志』第61号 pp.83-104 山口大學文學會。

金기혁(1995)『国語文法研究:形態・統語論』paki.jeng.

ウェブサイト

国立国語院ホームページ『標準国語大辞典』(<http://www.korean.go.kr/>) 2012年7月5日

国立国語院ホームページ「21世紀世宗計画(2011-12 修正版)」

http://www.korean.go.kr/09_new/dic/example/simplesearch.jsp) 2012年 7月6日